

6月8日は
世界海洋デー

未来の海を守る
取り組みを中面広告で
紹介しています。

天声人語

ホンダ創業者の本田宗一郎に逸話がある。村に正午を告げる寺の鐘を30分も早くついてしまった。お昼を早く食べたいがため、の作戦だ。時計やラジオが家々になく、鐘の音が時報だった

大正時代。自分の腹時計をまんまと標準時にする知恵には舌を巻く▼6月10日の

「時の記念日」が近づくと、舞台となった浜松市天竜区の清瀧寺せいりゅうじでは、地元の小学1年生が11時半ごろに昼の鐘をつく行事がある。今年はきょう8日に催される

▼時間の大切さを覚え、郷土から巣立ってきた。主催する街おこし団体「ポンポン CLUB浜松」代表の宮地武夫みやぢたけおさん(75)は「いたずらを奨励するつもりは少しもありません」と念を押す▼時の記念日が定められたのは1920年。この日は、

飛鳥時代に天智天皇が水時計みづどけい(漏刻ろうこく)を

使って時を知らせた日とされる。天智天

皇のおかげかどうかは知らないが、いまの日本社会が時間に正確であることはまちがいない▼昨年、東京と茨城を結ぶ電

車が定刻より20秒早く出発し、鉄道会社が「おわび」した。そのニュースは海外を駆けめぐった。たしかに旅行や出張で

外国へ行くたび、交通でも会合でも時間が正確に進む日本を誇らしくは思う▼そ

れでも、寸秒の遅れで公式謝罪までしなくてはいけない社会には、時に息苦しさを覚える。時間に追い立てられて疲れる

日には、かの本田少年の創意にならって心の鐘をゴーンとついでみようか。自分を

自分を見失わないための警鐘として。